納経堂と開山堂

納経堂

山寺の断崖絶壁の上に建つ小さな赤い建物、納経堂の下には、山寺の創建者である慈覚大師円仁（794～864 年）の遺骸が、かつて黄金に包まれていた棺に納められていると言われています。山寺では、修行の一環として僧侶が経典を書き写します。この写経の工程は長く、最長で 4 年を要します。この作業が終わると、写経は円仁への奉納品として納経堂に納められます。本来の建物は、1987 年に修理されています。県指定重要文化財に指定されており、山寺の最も象徴的な建築物の 1 つです。

開山堂

開山堂は、納経堂の隣にある建物です。御堂には慈覚大師円仁の木造の尊像が安置されており、朝夕、食べ物と香が絶やさず供えられています。開山堂は、慈覚大師円仁の命日にあたる 1 月 14 日だけ、法要のために開かれます。この日には、慈覚大師円仁の慰霊祭が行われます。今日の御堂は、1800 年代中期にまで遡ります。